



最近よく耳にするSDGs。よく分からないという方も多いのではないのでしょうか。SDGsとは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals 略）で、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すという国際目標です。2015年9月に国連サミットで採択され、17のゴール・169のターゲットの達成を目指し、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。これを受け、国ではSDGs推進本部を設置し、地方自治体を含むあらゆる関係機関と協力してSDGsに取り組んでいます。



さて、ここまで読んでいかがでしょうか。なんだか難しいなあ。世界規模の大きい話だし関係ないか、と感じたかもしれません。それでは、SDGsの17のゴールを、弘前市の取組と結びつけて考えてみましょう。例えば、『12 つくる責任つかう責任』と関連して、市ではごみの減量化・資源化に向けて、様々な団体との協定締結による取組や、消滅型生ごみ処理ボックス「ミニ・キエーロ」の普及などの取組を行い、市民1人1日当たりのごみ排出量は着実に減っています。また、『5 ジェンダー平等を実現しよう』では、男女共同参画の推進や、性的マイノリティの方が安心して暮らせるための「弘前市パートナーシップ宣誓制度」の導入、『9 産業と技術革新の基盤をつくろう』では、基幹産業であるりんご産業を維持していくための省力化・効率化に向けた取組（ロボット草刈り機の実証導入など）や農道の整備、などなど挙げればきりがありません。つまり、弘前市が将来も安心して住み続けられるまちであるための取組、そのすべてがSDGsの達成につながるのです。

いかがでしたか。ここまで読んで、SDGsが少し身近に感じられたでしょうか。もしかして、自分が無意識にやっていることもSDGsでは？と感じた方は素晴らしいですね！マイバッグの持参や食べ残しの防止、家事育児の平等な分担など、一人一人が行動できることもたくさんあります。SDGsは、今や国民の半数以上に認知されているといわれます。市役所での取組、そして市民の皆さん一人一人の力を総動員して、“安心して住み続けられるまち弘前”を将来へ引き継いでいきましょう！



消滅型生ごみ
処理ボックス
「ミニ・キエーロ」

ロボット草刈り機の
実証導入



第1回 ボランティア協働推進事業を開催しました

弘前市ボランティア支援センターでは、ボランティア体験を通して、若い世代に市の取組への理解を深めてもらうことを目的に、今年度から『ボランティア協働推進事業』をはじめました。

ボランティア協働推進事業とは

弘前市では、市役所だけでなく、町会、NPO、学生、ボランティアなどがみんなで協力し合いまちづくりを行う「協働のまちづくり」を進めています。協働のまちづくりには、お互いを理解し合うことが不可欠で、市の取組を皆さんに知ってもらうことが大切になります。

そこで、市のイベントに高校生や大学生にボランティアスタッフとして参加してもらうことで、ボランティア活動のきっかけづくりとしてもらうとともに、市の取組や仕事への関心・理解を深め、身近に感じてもらうことを目的に、この事業を行うこととしたものです。はじめに、市の担当者から、イベントに関連する取組や制度などについて説明を行いますので、事業内容をより理解してからボランティアに参加することができます。

当日の様子を紹介します

第1回ボランティア協働推進事業は、7月18日に市民協働課主催で行われた『協働まちづくりフォーラム』の会場設営・受付等のお手伝いをしてもらいました。このフォーラムは、市民参加型まちづくり1%システム補助金を活用した団体による事業成果発表のほか、活動のきっかけ・苦勞・やりがいなどをお話しいただく座談会などが行われ、協働のまちづくりについて楽しく知ってもらう内容となっています。事業成果発表では、津軽笛の演奏や、アート団体による「聴く音によってチョコレートの味が違って感じるか」の実験も行われ、普段なかなかできない体験に会場は盛り上がりました。

当日は柴田学園高校と黒石高校の7名の高校生にボランティアとして参加していただきました。

◇市職員からの説明



「協働のまちづくり」、「1%システム」ってなに？
今日のフォーラムはなぜ開催するの？
ボランティアってなに？心構え、注意事項は？
などについて、市の職員から説明を受けました。

フォーラムのこと、ボランティア
のことをしっかり知ってから
お手伝いスタート！

どうしたら効率よく作
業ができるか、みんな
でアイデアを出し合い
作業してくれました

◇ボランティア開始



配布資料準備



検温・手指消毒
の声掛け

会場設営



受付補助



フォーラムにも参加♪
しっかり聞いています



皆さん、大活躍！
ありがとう
ございました

せっかくなので
自己紹介も

参加した高校生の感想を紹介します

今回のまちづくりフォーラムや会場設営・運営のボランティア活動を通して、普段はあまり関わることのない弘前の特色を生かした事業や活動を知ることができました。広報に載っていた「1%システム」に関係する方々の詳しいお話や交流ができて、とても楽しく勉強できたと、弘前市についてもっと調べてみようという興味を湧きました。今後もこのような機会があるなら積極的に参加したいと思います。(柴田学園高校 千葉さん)

最近、コロナでボランティアや町内の行事が少なくなっている中で、改めてまちづくりに対して興味を持ったので参加しました。特に気になったのは、HIROSAKI-AIRのロマンスラボ展です。アートを五感で味わうというのが面白いと感じました。音で味が変わるのかというチョコレートの実験は本当に味が変わったのですごいと思いました。実際に見に行っているいろいろな体験をしてみたいと思いました。(柴田学園高校 工藤さん)

初めてのボランティア活動で緊張し、上手にできるか、失敗しないでできるか、ずっと考えていました。集合場所に到着し、自己紹介や説明を聞くうちに、「楽しみだ」「頑張ろう」という思いでいっぱいになりました。フォーラム見学では、「まちづくり」とは何か、たくさん考えることができました。まちづくりとは、「郷土愛」「知識のアップデート」「自分と向き合い、見えてきたことに挑戦すること」などだということを知りました。小さなことや少しのことでもまちづくりになると知り、これからは小さなことも意識しながら、まちづくりを楽しんで過ごしたいと思いました。将来さまざまな場所でまちづくりをしたいと考えています。(黒石高校 高橋さん)

特に印象に残ったのが、ひろエネさんとHIROSAKI-AIRさんです。最近、二酸化炭素の排出量を減らそう、ゼロにしようというニュースを見かけることが多いので、ひろエネさんのエネルギーの活動はすごく興味深いお話でした。HIROSAKI-AIRさんの実験にもとても驚きました。音によって味覚は違ってくるという実験で、チョコレートを2回食べましたが、本当に味が違いました。1回目のたき火の音では苦く酸っぱく感じたのですが、2回目の鈴の音では苦くも酸っぱくもなく、とても不思議でした。協働についても知ることができ、参加できてよかったです。(黒石高校 加藤さん)

私は将来市役所に就職し、地域の方々を支える仕事がしたいと考えています。今回は、会場設営などのお手伝いはもちろん、実際にまちづくりに取り組んでいる方々の話を聞くことができ、とてもよい経験になりました。最も印象に残っていることは、弘前市で取り組んでいる1%システムです。私は今回の講演をきっかけに、まちづくり活動を支援する1%システムという制度があることを知りました。このような取り組みがもっと広がればまちづくりを始めるきっかけが増え、取り組む人が増えるのではないかと思います。今後いろいろなボランティア活動に参加して、地域の方々とふれあいたいと思います。(黒石高校 坂田さん)

今回、1%システム事業成果発表会やまちづくり座談会に参加し、市民が議会や市役所任せではなく、自分たちのまちは自分たちで作っていくという意識を持って、できることから取り組む姿勢を大切にしていることや、各主体が互いに協力し合い、それぞれのいいところを生かしながら、役割に応じて取り組んでいるということについて詳しく知り、市民全体が参加しやすい、とてもよい環境だと感じました。今後は地域に少しでも貢献できるように「まちづくり」を実践してみたいと思います。(黒石高校 長尾さん)

弘前市が実施しているまちづくりのことをよく知ることができました。私はまちづくりと言われたらまずねぷた祭や町内でのまつりを思い浮かべましたが、それ以外にも今回のフォーラムではさまざまな活動が紹介されていました。特に、津軽笛を通じたまちづくりや、五感を使用した作品の展覧会、弘前市の条例に基づいた市独自のまちづくり1%システムが印象に残っています。これまで、まちづくりはお年を召した方々がするものだというイメージを持っていましたが、今回のフォーラムで若い人も参加していることを知り、まちづくりに対する偏見がなくなりました。また、市の担当者のボランティアにかける熱意や、まちづくりに対する真剣な姿を見ることができました。今後もボランティア活動に積極的に参加していきたいです。(黒石高校 佐藤さん)

参加してくれた7名の方は、協働のまちづくりについて興味を持ってくれたようです。今後もボランティア協働推進事業を開催していきますので、たくさんの高校生・大学生のボランティアの参加をお待ちしています！



豆知識

秋と言えば様々な果物が出回りますが、他と違いひと手間かける必要がある柿。そのまま渋がない物はよいですが、渋がある物は皆さんどうやって渋抜きしているでしょうか？アルコールで渋抜きをすると硬さが失われるため、好まない人も少なからずいると思います。

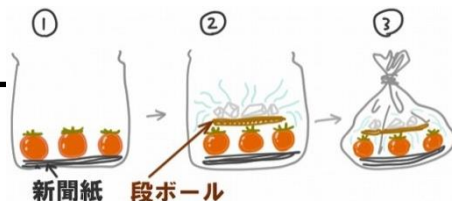
変化なく渋抜きをするのにおすすめなのはドライアイスによる渋抜きです。リンゴ手籠 1 つ分の柿 (7-10 kg) で大体ドライアイス 300-500g ほどを使い、大きめのポリ袋に柿を入れ、中にドライアイスを入れます。この時に直接柿がドライアイスに触れないように新聞でくるんだり、ボール紙に乗せて柿と一緒に袋をきつく結びます。ドライアイスは気化して二酸化炭素ガスになり膨らみますので袋の上部に 2, 3 か所破裂しないように針やつまようじで穴をあけておきます。そうすると 5 日~1 週間ほどで渋が抜け美味しくいただけます。

最近では使用する人も増えたのかドライアイスの販売店で購入時に「柿の渋抜き用」と言えば相談に乗ってもらえますので、一度ためしてみてもいいのでは？

※柿の栄養素としてはビタミンCが非常に多く含まれており、大人一人が一日に必要な量の約 7 割ほど含まれています。

渋の成分は、ご存じタンニンですが、渋抜きと言ってもタンニンが柿から出ていくわけではなく、元々水溶性のタンニンがアルコールや炭酸ガスにより変化して、人の口に感じなくなることにより渋が抜けた状態になります。

タンニンにはお茶で知られるように調整作用や殺菌効果がありますが、渋を感じなくなっても変化した状態で柿には含まれているので効果は期待できません。



編集後記

「キラキラ光る」



先日夜8時頃、公園内を勢いよく動く光達を目撃しました。それは、流れ星のように駆け抜けていきます。赤、青、緑、黄色のとてもカラフルな光で、あっという間に見えなくなってしまいました。

UFO?それとも幻?しばらくすると、その光達が前から近づいてきます。かなりのスピードで!そして、すれ違いざまに「こんにちは!」と元気に挨拶をしてくれたその光の正体は、市内小学校の子ども達でした。

「こんばんはー!がんばれー!!」コロナ事情なのか、毎年恒例なのか定かではありませんが、大人も交えてランニングをしている様子。

元気な子ども達に勇気をもらい、思い切って走ってみました。ほんの数メートルで断念。やはり気持ちだけでは体はついていかないと現実を見せつけられ、いつも通りの散歩に切り替えました。

暗闇の中にカラフルな光と笑い声、見上げると本丸と大きなお月様。コロナに怯えて生きる毎日ですが、子ども達の未来はキラキラと光り輝いていると確信しました。

Kim



弘前市ボランティア支援センターの新メンバー(担当職員)を紹介します



はじめまして。今年3月に定年を迎え、4月から再任用職員として、ボランティア支援センターに勤務している山本と申します。

世間では、新型コロナウイルス感染症の影響で「1人〇〇、ソロ〇〇」が流行っているようですが、自分も自宅でビールを飲みながらの1人焼肉にハマっています。次第に1人焼肉の頻度も増え、酒量も増える一方なので、運動不足解消と健康保持のため、昨年からはウォーキングを始めました。弘前公園や運動公園等でウヌウヌ歩いている人を見かけたら、それは私です。

職場の方々から優しいおかげで、紅一点ならぬ黒一点?の職場環境には慣れてきましたが、仕事の方は、まだまだ勉強中です。少しでも皆さんのボランティア活動のお役に立てるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山本浩樹



<制作>市民ボランティアスタッフ
<制作協力>弘前市ボランティア支援センター
〒036-8003 弘前市大字駅前町9番地20
ヒロコ3F 弘前市民参画センター内
TEL: 38-5595 FAX: 36-1822
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。